

談話室

「オーストラリアーアジア XPS
シンポジウム 1995」報告

福田 安生

静岡大学電子工学研究所
〒432 浜松市城北 3-5-1

(1995年12月18日受理)

Report on Australia-Asia XPS
Symposium 1995

Yasuo FUKUDA

Research Institute of Electronics
Shizuoka University, Hamamatsu 432

(Received December 18, 1995)

上記シンポジウム(英文名, Australia-Asia XPS Symposium 1995)が1995年11月14日~17日にオーストラリア, シドニーで開催された。出席者は約80名でありこぢんまりしたシンポジウムであった。出席者は地元オーストラリアをはじめ, ニュージーランド, インド, シンガポール, 香港, 中国, 日本, アメリカ, イギリス, カナダ, イタリア, ドイツからであった。日本からは私, 小島氏(物質研), 藤本氏(物質研)の3人であり, 珍しく日本人の少ないシンポジウムであった。多分, 情報不足と大きな国際学会(横浜で開催された真空, 表面に関する国際学会)の後で開催されたという時期に関連しているのかもしれない。

シンポジウムの内容は XPS を使った種々の材料の分析が主であったが, シンクロトロンを用いた研究も 2, 3 発表された。研究対象の材料ではポリマー, セラミック, 金属などが多いようであった。日本での学会とは異なり, 半導体材料関係の発表は少なかった。出席者の大多数がオーストラリア人であったことからその国の国情を表わしているのかもしれない。そのかわり表面処理された羊毛の表面分析の発表などがあり, お国がらを反映していた。参加各国の研究環境をみると, XPS が国内にほんのわずかしかない国やかなり多くの XPS をもち研究レベルも高い国などまちまちであった。

会議は市の中心から少し離れた風光明媚なクージービーチに面したホリデーインホテルで開催された。小さな会議のせいで, ほとんどの出席者と顔みしりになったことは幸運であった。会場も 1 会場であり会議に集中できたように思う。会議は New South Wales 大学化学科の Lamb 教授の研究室が中心になって組織されよくまとまっていた。

会議終了時に今後この会議を存続させるかどうかの議論があり, 存続させるべきであるとの意見が多くだされた。次回開催国としてシンガポール, 香港, 日本などが候補にあがったが, 香港は1997年に中国に返還され, 将来が不透明ということもあり, 辞退した。参加者からはシンガポールを推す声があったが, 組織委員会のほうからシンガポール大のカン教授と私との間で話し合っしてほしいとの要請を受けた。表面科学会は1996年11月に国際シンポジウムを開催するので, この年には日本で開催するのは困難と判断して, カン教授にはそのむね伝えた。彼もこのことを了承し, 帰国後関係者と相談して決めるとのことであった。